

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-139	A-540	22-053	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Risk factors and protective factors for alcohol-related liver disease: A systematic review and meta-analysis アルコール関連肝疾患のリスク因子と防御因子：系統的レビューとメタ分析			
執筆者			
Zhang R, Tang Z, Xu W, Ding Y, Zhang M, Guan Q, Jiang R, Chen Y, Hua Y, Wang J.			
掲載誌			
Alcohol Clin Exp Res. 2022 Dec;46(12):2128-2136. doi: 10.1111/acer.14951.			
キーワード		PMID	
アルコール関連肝疾患、コホート研究、メタアナリシス、危険因子		36203342	
要旨			
<p>目的： アルコール関連肝疾患 (ALD) は世界的な健康上の脅威であるが、これに対する特別効果的な治療法はない。ALD を予防する取り組みは重要であり、検証されたリスク因子と防御因子に基づく戦略で予防を強化できる可能性があるため、これらを明らかにする。</p>			
<p>方法： 2022年6月までに出版されたALDの因子を分析した論文について、「アルコール性肝疾患」「アルコール肝疾患」「アルコール関連肝疾患」「リスク因子」「予測因子」「性別」「肥満」「人種」「アルコール摂取量」「コホート研究」「前向き研究」をキーワードとし、PubMed、Embase、The Cochrane Library から体系的に検索した。(1) 前向き・後ろ向きを含むコホート研究、(2) 18歳以上を対象とし、ベースライン時にALDの罹患がない、(3) 新たにALDと診断されたことをエンドポイントとしている、(4) ALD罹患リスク因子と防御因子について元データの提供がある、の4つの条件を満たす論文を対象とし、10件が抽出された。定量分析に適した因子は、固定効果とランダム効果を使用したメタ分析を行い、各要因のリスク比 (RR) と95%信頼区間 (CI) を算出した。</p>			
<p>結果： 明らかな因果関係を報告した研究は、10件のコホート研究 (総数100万人) が確認された。性別、人種、教育レベル、BMI、アルコール摂取量、アルコール飲料の種類、飲酒期間、飲酒頻度、喫煙、コーヒー摂取量、紅茶摂取量の11の潜在的なリスク因子が明らかにされており、そのうち3因子 (性別、アルコール摂取量、喫煙) についてメタ分析を行った結果、男性 (RR=2.84, 95%CI=1.86-4.36)、アルコール摂取量\geq280g/週 (RR=4.96, 95%CI2.71-9.07)、喫煙 (RR=2.39, 95%CI=1.97-2.89) がALDのリスク因子であることが明らかとなった。</p>			
<p>結論： ALDの罹患には、多くの因子が影響する可能性があり、男性、大量のアルコール摂取、喫煙はALDのリスクを高める因子であることが明らかとなった。他の因子との関連についてさらなる評価が必要である。</p>			